

# かけはし

会報 75号 発行:特定非営利活動法人全国LD親の会 発行人:内藤 孝子  
 事務局:〒151-0053 東京都渋谷区代々木2-26-5 バロール代々木415  
 TEL/FAX:03-6276-8985 E-MAIL:jimukyoku@jpald.net URL:<http://www.jpald.net/>



## 特定非営利活動法人

### 全国 LD 親の会第 6 回総会および第 12 回全国 LD 親の会公開フォーラム開催

第 6 回総会および第 12 回全国 LD 親の会公開フォーラムを下記の通り開催します。なお、総会議案書等については 5 月中旬に別途発送する予定です。

#### ●第 6 回総会

日 時:2013 年 6 月 8 日(土)

12:30 ~ 14:00 (受付:12:00~)

会 場:ドーンセンター1F パフォーマンススペース

#### ●研修会&展示会

(発達障害のある人のピア活動支援事業)

日 時:2013 年 6 月 8 日(土) 14:30 ~ 17:00

会 場:ドーンセンター1F パフォーマンススペース

今年度は、「当事者からの発信」というテーマで、研修会&展示会を行います。

#### <研修会… トークセッション>

「誰もが自己表現できる社会を目指して」

齊藤 真拓さん(鳥取大学地域学部2年生)

近藤 武夫氏(東京大学先端科学技術研究センター)

2011 年 1 月から大学入試センターで新たに発達障害が特別措置に追加されたこともあり、弊会でも大学等への進学を希望する人は増加傾向にあります。しかし、大学に進学しても、大学等で何の支援も受けられず、授業や学校生活、また就職活動がうまくいかない状態にある人も少なくありません。発達障害のある人が自立・社会参加していくためには、安心できる環境の中で、自信、意欲を育んでいくことが必要です。

そこで、今回は、発達障害があることを公表して、鳥取大学で学んでいる齊藤さんと支援者の近藤先生をお迎えして、トークセッションを企画しました。

齊藤さんは大学進学を目指して勉学しながら、障害や病気で困難を抱える生徒さんにパソコンやサポート機器・ソフトを提供して大学進学や就職を支援している東京大学先端科学技術研究センターのプログラム「DO-IT Japan」

にも参加。その協力も得て、パソコンでの受験を大学の入学センターに申請し、日本の大学としては初めて鳥取大学から、大学側が準備したパソコンを使用することを条件に受験が許可され、昨年、合格しました。齊藤さんは、現在、鳥取大学地域学部で学んでいます。齊藤さんには大学生活や将来の夢についてなどを、近藤先生には大学での必要な支援や配慮、本人が身につけていきたい力などについてお話をいただき、障害があってもなくてもだれもが自己表現できる社会の実現に向けて、何が必要か参加者とともに考えていきたいと思います。

#### <展示会… 集まれクリエーター>

発達障害のある人の創造的、芸術的及び知的な潜在能力の発表の場として、各地の親の会から当事者たち(子ども～成人まで)の書道・絵画・陶芸・写真などの創作作品を募り、展示会を開催します。ふるってご参加ください。

「障害者の権利に関する条約」では「締約国は、障害者が差別なしに、かつ、他の者と平等に高等教育一般、職業訓練、成人教育及び生涯学習の機会を与えられることを確保する。このため、締約国は、合理的配慮が障害者に提供されることを確保する」と示され、学齢期だけでなくライフステージに応じての教育や学習の機会の確保や、個人に必要とされる合理的配慮が提供される事等が求められています。

今年度の研修会、公開フォーラムでは、2 日間を通して、教育においての機会の確保やそのための「合理的配慮」のあり方について、理解を深めることができればと考えています。

(内藤)

#### ●懇親会 (アジア太平洋障害者の十年最終年記念

障害者関係功労者表彰 祝賀会)

日 時:2013 年 6 月 8 日(土) 18:00~20:00

会 場:ゆいまーる(ドーンセンター1F)

会 費:5,000 円

## ●第12回全国LD親の会公開フォーラム

(日本財団 助成事業)

日 時:2013年6月9日(日)

10:15～17:30 (開場 9:50)

会 場:ドーンセンター(大阪府立男女共同参画・青少年センター) 7F ホール

テーマ: 特別支援教育の推進

～一人一人の学びを保障する支援の在り方～

主 催:NPO 法人全国 LD 親の会

参加費:1,500 円

趣 旨:

平成16年12月に「障害者の権利に関する条約」が国連総会において採択され、日本も批准に向けて検討が進められてきました。平成23年7月には障害者基本法改正案が可決され、教育については、昨年7月にまとめられた「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進」の中で「障害のある子どもと無い子どもが、できるだけ同じ場で共に学ぶことを目指すべきである」という提言がなされました。「共生社会」とは、誰もが相互に人格と個性を尊重し支え合い、人々の多様な在り方を相互に認め合える全員参加型の社会であり、その形成に向けたインクルーシブ教育システム構築においては、子ども一人一人が学習活動に参加している実感・達成感を持ちながら、充実した時間を過ごしつつ、生きる力を身につけていけるかどうかが最も本質的な視点であり、そのための環境整備が必要です。そのためには、特別支援教育の推進によって蓄積してきたノウハウの汎用化・ユニバーサルデザイン化を図るとともに、様々な障害の状態に応じた支援機器の充実を図っていくことが求められています。本フォーラムでは、教育分野のみならず就労など社会参加の場面についても視野に入れて、発達障害のある人や子どもの個別のニーズに応じた支援のユニバーサルデザインについて議論を深め、検討していきたいと思います。

### プログラム

10:15 開演挨拶

10:20-11:30 基調講演

「読み書き障害のある子どもの

基礎理解と関わり方について」

竹田 契一 (大阪教育大学名誉教授)

11:30-12:40 特別講演

「発達障害児・者の学習・生活・就労を

テクノロジーにより支援する」

近藤 武夫

(東京大学先端科学技術研究センター准教授)

13:40-15:20 行政解説

「特別支援教育・発達障害支援行政の

最新情報と目指すべき方向性」

文部科学省 大山 真未

(特別支援教育課 課長)

厚生労働省 阿萬 哲也

(障害福祉課 障害児・発達障害者支援室 室長)

15:30-17:30 シンポジウム

「すべての子どもの学びを保障するために」

&lt;話題提供&gt;

教育行政の立場から

今川 恵美子(池田市立石橋小学校)

教員の立場から

山田 充 (堺市立日置荘小学校)

保護者の立場から

井上 育世 (NPO 法人全国LD親の会)

&lt;指定討論&gt;

近藤 武夫(東京大学先端科学技術研究センター)

&lt;司会&gt; 内藤 孝子 (NPO 法人全国LD親の会)

(詳細は同封のチラシをご覧ください)

### ●青年の交流会

(発達障害のある人のピア活動支援事業)

日 時:2013年6月8日(土) 13:00～20:00

集合場所:ドーンセンター4F 中会議室

〒540-0008 大阪市中央区大手前1丁目3番49号

「落語家さんと行く、なにわ探検クルーズ」

今年度の青年の交流会は、大阪 LD 親の会「おたふく会」の青年本人たちが、「全国の青年の仲間を大阪でおもてなししよう！」と企画しました。水上バスを貸し切って、水の都大阪を、落語家さんと一緒にクルージングを楽しみます。

大阪は、昔から川と共に発展してきました。その歴史や文化を、落語家さんが面白おかしく案内してくださいます。道頓堀、中之島公会堂など、大阪の有名スポットを、水上という普段なかなか見られない視線からのんびりと観光できます。クルーズの後は懇親会(希望者のみ)、なんばで食事を楽しみながら、交流を深めたいと思います。

18歳以上で、自力で参加でき、自力で解散地点から帰ることができる方が参加できます。初めての方でも安心して参加してもらえるよう、準備を進めています。沢山の青年の皆さんにお会いできるのを楽しみにしています。

(小林)

### スケジュール

13:00～ 受付

13:15～ 交流会

14:45 ドーンセンター出発

(地下鉄でなんばまで移動)

16:00～17:30 クルージング

18:00～20:00 懇親会 「ひな野」OCAT モール 5F

(申込等詳細は別途お知らせします)

## 平成26年度予算要望書を提出

平成26年度の予算編成について、平成25年4月4日に、文部科学大臣、厚生労働大臣あてに「平成26年度予算要望書」を提出しました。

### 文部科学省関係予算要望事項

#### ＜予算要望事項＞

1. LD、ADHDを対象とした通級加配の人員を計画的に確保していくこと
2. 発達障害のある児童・生徒に対する個別の教育支援計画の作成・活用・引継ぎを義務付けすること
3. 早期からの教育相談・支援体制を整備すること
4. 通常の学級において、学級規模を小さくすることや複数教員による指導の充実を推進すること  
・後期中等教育における発達障害のある生徒に対する支援体制を強化すること
5. 大学等の高等教育における発達障害のある学生に対する支援体制を整備すること
6. 教員の専門性の向上、教員への支援体制を整備すること
7. 学校外の人材・資源・資格等の活用を推進すること
8. 発達障害の特性に応じた災害時の支援対策を整備・周知すること

#### ＜中長期的な要望＞

1. 特別支援教室構想について、インクルーシブ教育の推進の中で検討を行うこと
2. 合理的配慮を確保しつつ、インクルーシブ教育システムの充実の推進をはかること
3. 学習面の困難に対する取り組みを強化すること
4. LD、ディスレクシア等の視覚認知等に困難を持つ発達障害者が、個々の特性に合わせ多様な手段・手法・技術によりバリアフリー化された図書や教科書を無償かつ容易に利用できるよう、各種の支援手段・技術の開発、普及に取り組むこと
5. 発達障害に対する、社会的理解の向上に取り組むこと

### 厚生労働省関係予算要望事項

#### 【厚生関係】

#### ＜予算要望事項＞

1. 身近な地域での発達障害児者およびその家族に対する支援を新体系(児童福祉法・障害者総合支援法)に基づき推進すること  
・発達障害児者の特性と個々のニーズに応じた障害支援区分の認定の推進
2. 発達障害者支援センター事業を拡充すること
3. 乳幼児から成人までの発達障害に対応できる医療機関を拡充すること

4. 発達障害者に対する情報支援体制の整備を拡充すること
5. 発達障害の特性に応じた災害時の支援対策を整備・周知すること
6. 発達障害に対する理解、啓発を促進すること

#### ＜中長期的な要望事項＞

1. 発達障害をふくめ、障害者の所得保障制度を拡充すること
2. 長期的な展望に立った発達障害の専門的人材の育成と、専門職の位置づけを明確化すること

#### 【労働関係】

#### ＜予算要望事項＞

1. 障害者雇用促進制度において、「精神障害(発達障害含む)」についても雇用義務の対象とすること
2. 地域障害者職業センターにおいて、障害者手帳を保持していない発達障害者について、雇用対策上の「判定」の導入を進めること  
・発達障害は、社会性やコミュニケーション面など障害の判定が難しいという障害特性を持っている。そのような特性のある発達障害のある人を支援の対象としていくためには、地域障害者職業センター等の公的機関において、職業的困難度を基準とした「障害」を判定する仕組みを開発することが必要である。障害者雇用率制度、障害者雇用納付金制度などの雇用対策上の知的障害者・重度知的障害者の判定と同様の「障害」判定する仕組みの導入が必要である

3. 発達障害者に対する相談体制の整備と多様かつ効果的な職業訓練、職場実習制度を充実すること
4. 地域における障害者の職業能力開発および職業訓練を強化すること
5. 発達障害者の雇用機会を拡大すること
6. 公的機関における発達障害者の雇用を促進すること
7. 雇用・就業関係機関職員や事業所に対する発達障害関係の研修を充実すること
8. 障害者就業・生活支援センター事業を拡充すること
9. 継続して働き続けるための支援の充実

#### ＜中長期的な課題に関する要望＞

1. 障害者雇用促進法における障害者の範囲について、改正された障害者基本法の定義と同様に、身体障害、知的障害、精神障害(発達障害も含む)とする。発達障害について明記し、障害者雇用促進制度の対象として明確化すること
2. 労働・雇用分野での障害を理由とする差別の禁止、職場における合理的配慮の提供を確保するため、発達障害の特性を考慮に入れ必要な措置を推進すること

## 特別支援教育支援員養成事業



平成19年4月から法律に基づき特別支援教育が実施されていますが、発達障害を含む様々な障害のある児童生徒に対する学校生活上の介助や学習支援などを行う「特別支援教育支援員」の経費については地方財政措置が講じられ、平成24年度には特別支援教育支援員は幼稚園、小学校、中学校、高等学校において、全国で約4万人が活用されています。

ところが、これらの学校教育現場で活用される支援員等に関して、その資格要件・資質、養成や研修の実施については、実施主体である市町村に委ねられており、バラツキや学校現場での混乱等も指摘されおり、支援員に対する研修を効果的に実施できている自治体は少ないのが現状です。

こうした実態をふまえ、弊会では文部科学省から委託をうけ、3年間にわたり特別支援教育支援員やボランティア支援員の質的な向上に資することを目的に、「特別支援教育支援員、ボランティア支援員養成事業」として、養成研修の体系化・標準化を図るなどの養成方法の研究に取り組みました。一般社団法人日本LD学会、一般財団法人特別支援教育士資格認定協会から多大なご協力を得、さらに障害者団体、職能団体、校長会等の関係団体の皆様からもご意見を伺い、カリキュラム体系、シラバス、講座の試行実施、研修体系のモデルの策定と実証研究を行いました。

3年間の研究成果をもとに、今年度から日本財団の助成をうけ、「特別支援教育支援員養成事業」として、特別支援教育支援員養成講座・ボランティア支援員養成講座の本格実施、テキストの作成に取り掛かっています

### 1. 特別支援教育支援員養成講座

#### ① 支援員コース・学習支援員コース

##### ◆日程:

<支援員コース・学習支援員コース 共通>

第1日 2012年8月25日(土) 9:50~17:00

第2日 2012年8月26日(日) 9:30~16:40

第3日 2012年9月29日(土) 9:30~16:50

第4日 2012年9月30日(日) 9:30~12:40

(台風のため午後休講)

第5日 2012年10月20日(土) 9:30~16:30

<学習支援員コースのみ>

第6日 2012年10月21日(日) 9:30~16:50

第7日 2012年11月10日(土) 9:30~16:50

##### ◆会場: ドーンセンター(大阪市)

##### ◆コース:

##### ・支援員コース (20科目/27.5時間)

特別支援教育支援員として、校長や担任教諭等の指示の下で、発達障害等の障害のある児童生徒に対する介助、保護者等に対する相談支援が行える者の養成。

受講生: 42名 修了者: 35名

##### ・学習支援員コース (28科目/39.5時間)

特別支援教育支援員として、校長や担任教諭等の指示の下で、発達障害等の障害のある児童生徒に対する介助、学習支援、保護者に対する相談支援が行える者の養成。

受講者: 10名 修了者: 8名

##### ◆講師:

特別支援教育士SVを中心とした有資格者16名

##### ◆受講者の属性:

一般: 32名(教員、支援員、学童支援員、塾講師など)

親の会 会員: 20名(京都たんぽぽ、翼、おたふく会、たつの子、ほっぷ、はとりんぐ)

##### ◆運営協力: 大阪LD 親の会「おたふく会」

兵庫県LD 親の会「たつの子」

<8/25 特別支援教育概論 竹田契一先生>



<10/20 ペアレント・トレーニングの視点

河内美恵先生>

#### ②ボランティア支援員コース

##### ◆会場: 市川駅南公民館(千葉県市川市)

##### ◆ボランティア支援員コース(11科目/12.5時間)

学校等で有償・無償のボランティアとして、校長や担任教諭の指示の下で、発達障害等の障害のある子どもの支援、保護者等に対する相談支援が行える者の養成。

## ◆講師：

特別支援教育士SVを中心とした有資格者 8名

## ◆プログラム

第1日 2013年1月26日(土) 9:30~17:40

科目	
	オリエンテーション
1	ボランティア支援員としての業務や心構え 吉田 昌義(帝京大学文学部教授)
2	特別支援教育概論 柘植 雅義(国立特別支援教育総合研究所)
3	子どもへの対応の基本 両川 晃子(信州大学附属病院)
4	障害のある子どもの心理 両川 晃子(信州大学附属病院)
5	学級・学校での支援の仕方、担任との連携の仕方 小林 玄(東京学芸大学非常勤講師)

第2日 2013年1月27日(日) 9:10~17:40

6	保護者への対応 山岡 修(NPO法人全国LD親の会)
7	主な障害の特性の理解(1) 篁 倫子(お茶の水女子大学大学院教授)
8	主な障害の特性の理解(2) 篁 倫子(お茶の水女子大学大学院教授)
9	子どもの特性と対応方法 社会性・コミュニケーション・行動面の困難と サポート方法 増田 博信(ときがわ町立都幾川中学校)
10	子どもの特性と対応方法 自立生活面・学校生活面での困難とサポート方法 上原 芳枝(リソースセンターone)
11	ワーク 上原 芳枝(リソースセンターone) 修了式

## ◆受講者の属性：

一般：18名(教員、支援員、介助員、塾講師など)

親の会会員：27名(千葉コスモ、埼玉麦、けやき、にんじん村)

## ◆受講者の感想

- 特別支援教育の専門家の先生方のお話はとてもわかりやすく、先生方の熱意ある講義が受けられるのはすばらしい機会でした。
- 2日間の集中型は集中できて良い面もあるが、間で振り返ったり、本を読んでみたり、考える余裕がないので、間に一週間あってもよかったですかもしれない、と思いました。
- 支援員として日々「これでいいのか」とかかわり方などで悩みながら働いておりましたが、本講座を受講し、少し安心できたように思います。多くの支援員が不安を抱えな

がら働いているのではないかでしょうか。各市町村の担当の方々に本講座が開けるよう、広めていって欲しいです。

## ・講座満足度

「とても満足している」82%・「やや満足している」17%

## ◆運営協力 千葉発達障害児・者親の会「コスモ」



講座運営に協力いただきました「千葉コスモ」のみなさまありがとうございました。

## 2.テキストの作成

一定レベルの特別支援教育支援員養成講座を実施することができるよう、汎用的に使えるテキストの作成に取りかかりました。2年間で完成する予定です。

## &lt;上巻の目次&gt;

- A. 特別支援教育支援員としての業務や心構え
  - I 特別支援教育支援員の業務
  - II 特別支援教育支援員としての倫理・心構え
- B. 特別支援教育の基本的な考え方・理念
  - I 特別支援教育概論
  - C. 主な障害の特性の理解
    - I 知的、身体、視覚、聴覚の障害
    - II 発達障害
  - D. 学校・学級での支援の仕方、担任との連携の仕方
    - I 学校・学級での支援の仕方
    - II 担任との連携の仕方
  - E. 子ども等への対応の基本
    - I 子どもへの対応の基本
    - II 障害のある子どもの心理
      - ～発達障害の心理的疑似体験～
      - III ペアレンツ・トレーニングの視点
      - IV 保護者への対応

## 3.今年度の事業予定

支援員養成講座の開催(「支援員コース・学習支援員コース」(1回)、「ボランティア支援員コース」(2回))とテキスト(下巻)の発刊を予定しています。

本事業が、発達障害等の障害のある児童・生徒への支援の充実、特別支援教育の推進、保護者のエンパワメント、障害のある児童生徒に対する社会一体となった支援の充実に資することを願っています。 (内藤)

## 発達障害児のためのサポートツールの 個別の使い方とユニバーサルデザイン化

サポートツール・データベース事業では、昨年度から「発達障害児のためのサポートツールの個別の使い方とユニバーサルデザイン化」をテーマに取り組んでいます。本事業は、国が掲げている「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進」という取り組みの中で、当事者団体の視点でサポートツール・データベースを提供していくことにあります。

特別支援教育は、子どもの自立や社会参加を目指して、ひとりひとりの教育的ニーズを把握し、適切な指導・必要な支援を行うことであり、インクルーシブ教育システムにおいては、同じ場で共に学ぶことを追求するとともに、個別の教育的ニーズのある子ども達に対して、その時点で教育的ニーズに最も的確に応える指導を提供できるような多様で柔軟な仕組みを整備することが重要です。

本事業では、「子どもがもつ困難や特性に合わせた教材・教具のデータベース化」で、通級指導教室など個別対応の場で成果を上げているサポートツールを中心に、その有効な使い方も含めて掲載してきました。小・中学校における通常の学級、通級による指導、特別支援学級、特別支援学校といった、連続性のある「多様な学びの場」においても、ひとりひとりの教育的ニーズに応じた教材・教具を、「合理的配慮」のもとで有効に取り上げていくことが、特別支援教育を進めていく上で欠かせない視点といえます。

### 1.サポートツール・データベースの充実とホームページのリニューアル

昨年度、HPを全面リニューアルする予定で作業を進めてきましたが、1月末に「サポートツールの検索」のページだけ一足早く、キーワード検索を主体に整理しなおし、アップしました。キーワードを入力することでツールの範囲が絞られてくるため、今までのピンポイント検索に比べて、使いやすくなつたのではないかと思います。

コンテンツは、「サポートツール・データベース」「研修会」「動画」「ユニバーサルデザイン」の4つをメインにして、より情報を探しやすいシンプルなサイトに再構成しました。今後は、各コンテンツの内容を充実させていきます。

### 2.サポートツール全国キャラバン2012教材教具研修会 「発達障害がある子ども一人ひとりのニーズに応じた

#### 指導・支援の具体的方法

##### ①サポートツール全国キャラバン2012 in 東京

2013年2月10日(日)13:30~16:30



会場:江東区教育センター 大研修室

参加者:87名(保護者37名、教員16名、作業療法士4名、その他30名)

講演1「発達障害のある子どもの特性に沿ったサポートと教材の活用」～使い方で変わる教材の有効性～

講師:山田充氏

(特別支援教育士スーパーバイザー)

講演2「作業の工夫で子どもたちを元気に!」～発達障害のある子どもたちに応じた教材教具の工夫～

講師:丹葉寛之氏

(藍野大学医療保健学部作業療法学科講師)

通常の教材教具研修会は、午前から1日掛けて開催していますが、今回は午後からのプログラムで、「もっと話を聞きたかった」という声をたくさんいただきました。東京の東部地域の保護者の皆さんと一緒に、再度研修会を開催できればと思います。

##### ②サポートツール全国キャラバン2012 in 長崎

2013年2月11日(月・祝)10:00~16:30

会場:長崎県立こども医療福祉センター

参加者:81名(保護者23名、教員15名、専門職19名、その他24名)

共催:長崎発達支援親の会「のこのこ」

講演1「発達障害のある子どもの特性に沿ったサポートと教材の活用」～使い方で変わる教材の有効性～

講師:山田充氏

(特別支援教育士スーパーバイザー)

講演2「発達障害のある子どもの感覚運動機能に応じた教材教具の工夫」

講師:嶋谷和之氏

(日本感覚統合学会テストメカニクスインストラクター)

各講演のあと、事例検討のワークショップの時間を持ちました。講演の内容をすぐに実際の分析に生かすことができたのではないかと思います。長崎発達支援親の会「のこのこ」の皆さん、どうもありがとうございました。

### 3.今年度の事業内容

#### ①フォーラムの開催:2013年6月9日(日)

第12回全国LD親の会公開フォーラム

特別支援教育の推進

～一人一人の学びを保障する支援の在り方～

(フォーラムの詳細は、p2をご覧ください)

#### ②研修会の開催(2回)

全国LD親の会に加盟している親の会と共に、サポートツール全国キャラバンをおこないます。

#### ③教材・教具の具体的な使い方についての会議開催

教材・教具の具体的な使い方とユニバーサルデザインとしての使い方について検討し、その内容をWeb上で発信していきます。

(井上)

## ●特別寄稿

### 全国LD親の会が取り組む2つの事業への期待 そして、全国LD親の会への期待

国立特別支援教育総合研究所  
柘植雅義

小中学校等の通常学級において、LD等の発達障害の児童生徒が学ぶ場合、(1)指導や授業の内容と方法の工夫、そして、(2)指導や支援を行う校内体制の整備、の2つがポイントとなります。

実は、ちょうどこの二つの事柄に関する事業を、全国LD親の会はこれまで継続して取り組んできています。

一つは、「発達障害児のためにサポートツールの個別の使い方とユニバーサルデザイン化」事業で、もう一つが「特別支援教育支援員の養成」事業です。幸いにも、私は、この二つの事業に応援団として関わることができました。

先ず、「発達障害児のためにサポートツールの個別の使い方とユニバーサルデザイン化」事業では、LDをはじめ広く発達障害のある児童生徒のための教材教具が、現在では何と1000点ほどが、全国LD親の会のWebサイトで公開されています。おそらく、毎日のように全国各地の学校の教員らがこのWebサイトを活用していることでしょう。いくつかの教材教具については、実際に教室で活用してみた実証事例もあり、教室での指導や授業では大いに役立ち心強いことでしょう。さらに、これと併せて、教材教具を活用した授業のユニバーサルデザインに関する研修会を全国で毎年開催してきました。

一方、「特別支援教育支援員の養成」事業では、特別支援教育の本格的な実施に伴い国で予算化された特別支援教育支援員制度に関連して、その支援員や、広く種々のボランティアらを養成する仕組みの構築や実際の養成に取り組み、その成果を検証していくうとするものです。これから特別支援教育支援員として活躍したいと考えている人、既にそのような立場で活躍しているがさらに研鑽を積んでみたいと考えている人などが、受講しています。また、講義録をまとめてテキストを作成する計画も進んでいくようで、全国で活躍する特別支援教育支援員らの知識やスキルの向上に大いに貢献することが期待され、楽しみです。

さて、近年、障害のある子どもの学校教育における保護者や親の会への期待や役割が大きくなってきました。特に、特別支援教育の時代になり、その流れは一層大きく

なっています。昨年2012年7月に中央教育審議会が取りまとめた特別支援教育に関する取りまとめにおいても、その流れが読み取れます。

障害のある子どもの保護者が最も望むことは、我が子の健やかな成長と確かな成長でしょう。そして、学校教育においてそれを直接支えるのが、日々の授業です。したがって、少しでも良い授業、少しでも質の高い授業がなされて欲しいと考えるのは当然です。今では、特別支援教育への転換や、発達障害者支援法の施行は、まさにそれらを支える後ろ盾です。

そして、全国LD親の会がこれまで取り組んできて、そしてまたこれから取り組んでいこうとしているこの2つの事業は、まさに、その望みを具現化する仕掛けなのです。

事柄が良い方向に行くよう、「望む」「期待して待つ」「陳情する」「署名運動をする」「説明に行く」「講演会を開く」…どれも大切です。しかし、そのような従来からの手法だけでなく、その方向に行ってくれるような確かな根拠(エビデンス)を探し、集め、作っていくことも、重要な時代になってきました。このような作業はなかなか難しいかも知れませんが、しかし、今の時代では、そのようなものが得られるとその後の展開は、返って楽でスピーディーかもしれません。

そして、そのような根拠(エビデンス)を探し、集め、作っていく活動が、巡り巡って、教室の中の指導や授業の充実に繋がっていくのであり、場合によっては、やがて法律が作られ、制度が作られていくことにもなるでしょう。

そして、そのような活動に、必要に応じて、親の会の外の多様な人材を活用することも可能です。全国LD親の会と早い時期から上手い具合の連携協力を続けてきている日本LD学会もその一つでしょう。

最後になりましたが、全国LD親の会が発足した当時とは比べ物にならないくらい、時代が変化し、LDのある児童生徒の教育も充実してきました。“まるで何もない”、という状態から、“とりあえずのものは揃った”、という状態に見えるかもしれません。でも、決して安心してはいけません。時代はさらに変化していきます。時代の変化に合わせて、必要なものも変化していくことでしょう。今は何が必要か(何が足らないか)、そして、これから何が必要になっていくのかということに、常に思いを巡らし、これからもさらなるチャレンジを続けていって欲しいと思います。LDのある子どもたちのために。

「現状維持は退歩」(哲学者ニーチェ)

## 親の会設立準備を進めています！ 福島県 高知県

### ●福島県

福島県で親の会の設立準備を進めています。昨年11月、福島県での親の会設立に向けて品川裕香氏と佐藤由弘先生の教育講演会を、また12月に福島市内で交流会を行いました。周知が遅れたせいか参加人数が少なく残念でしたが、それでも、講演会の後に伺ったお話しや、交流会の様子から保護者の方の親の会への期待を感じられました。

今年度は福島のみなさんに早めに案内をお届けして、より多くの方に集まって頂き、親の会設立の機運を盛り上げていきたいと思います。まず、下記の日程で交流会を行う予定です。お知り合いの方へ是非お知らせ下さい。

(東條)

#### 【福島県LD等発達障害のある子どもをもつ親の交流会】

日 時：5月25日(土) 14:30～16:30

会 場：福島市アクトティブシニアセンター

アオウゼ(A・O・Z) 和室

福島市曾根田町1-18 MAXふくしま4階

参加費：無料

#### 【申し込み・問い合わせ】

全国LD親の会事務局までご連絡お待ちしています！

FAX:03-6276-8985 e-mail:jimukyoku@jpald.net

### ●高知県

高知県LD等発達障害親の会設立に向けて、高知の保護者の皆様と、日頃の悩みなどについて話し合いたいと思い、下記のような座談会を開催します。

#### 保護者による 子育てトーク & 座談会

「ちょっと違う子育てが、おもしろい！」

日 時：2013年4月14日(日) 13:30～16:30

会 場：高知市東部健康福祉センター 2F 研修室

プログラム：

\*保護者による子育てトーク (13:40～14:40)

「働いていくことを見据えた子育てについて」

\*座談会 (14:40～15:40)

「日頃の子育て、あれこれ」

\*LD等発達障害親の会設立に向けて (15:40～16:30)

子育てに悩みはつきものと言われるけれど、なんかちょっと違う…。そんなことを感じ、悩みながらも、工夫して良かったこと、子どもと一緒に楽しんできたことなど、保護者どうし、ゆっくり話し合う予定です。何よりも本人である我が子が日々の生活を楽しんでほしい、そして、子どもたちがいきいきと生きていけるような社会になってほしい、そんな親としての思いを共有したいと思います。

終了後は、個別の質問・相談コーナーなども設ける予定です。

(井上)

## ～一般社団法人 日本LD学会 第22回大会案内～

今年は、横浜で日本LD学会大会が開催されます。例年どおり、「親の会企画シンポジウム」「親の会紹介ポスター展示」を企画させていただくことになりました。併せて、「親の会懇親会」を行う予定です。交通の便もよい会場ですので、奮ってご参加ください。 詳しい内容は後日お知らせいたします。

日 時：2013年10月12日(土)～14日(月・祝)

場 所：パシフィコ横浜(横浜国際会議場) 〒220-0012 横浜市西区みなとみらい1-1-1

みなとみらい線 みなとみらい駅より徒歩3分、JR線・市営地下鉄 桜木町駅より徒歩12分

JR東海道新幹線 新横浜駅より電車で13分、羽田空港より バスで約40分、電車で約30分

【大会テーマ】 「多様なニーズへの挑戦 一たて糸とよこ糸で織りなす新たな教育の創造一」

【大会長】 枝植 雅義 (独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所)

【親の会会員の参加申込】 受付期間：2013年4月1日～7月1日

親の会の方は、学会ホームページの「予約参加等申込フォーム(非会員用)」から予約参加等申込を行って下さい。本大会は当日参加が可能とのことです。当日参加希望の親の会の方は、「親の会受付」で手続きをして下さい。 大会参加費：予約参加 3,500円、当日参加 4,500円。

## 会員対象 高校生アンケート

高校生と高校相当の年齢のお子様、その保護者である会員を対象としたアンケートをお願いしていました。答えるにくい部分もあるアンケートに多くの会員から回答をいただきました。協力して下さった会員の皆様とお子さんに感謝致します。

まだ予備集計の段階ですが、アンケートの回収率は保護者が 59%、子どもが 54%となっています。

子どもの分を親が代筆する場合があるとは想定していたのですが、「書くのが苦手な本人に代わって、下の子が聞き取りしながら記入した」とのコメントもありました。きょうだい仲が良いのが伝わってきました。

できるだけ早く、第 1 報を報告したいと思っています。

(東條)

地域	高校相当 人数	回収数		回収率	
		保護者	子	保護者	子
北海道 B	48	23	22	48%	46%
東北 B	29	20	18	69%	62%
関東 B	229	129	114	56%	50%
東海・北陸 B	47	26	25	55%	53%
近畿 B	171	114	104	67%	61%
九州 B	72	38	37	53%	51%
計	596	350	320	59%	54%

## 集まれクリエーター

全国LD親の会のHPの「集まれクリエーター」に掲載する作品を募集しています。

お子さんが作ったもので、写真に撮れる「作品」であれば、絵、イラスト、CG、工作、習字、写真等、何でも結構です。上手・下手は関係ありません。ただし、他のコンクール等に出品したものはお避け下さい。「題名」は自由ですが、明らかに間違っていると思われるものについては、「子どもの付けた名前なのでそのままにして欲しい」等の要望があれば、そのまま掲載します。できるだけ多くの人の作品を載せたいと思っています。1人で作品がたくさんある場合は、これぞ！というものの1点を所属会まで送って下さい。たくさんのご応募お待ちしています。

(東條)

### \*応募方法\*

応募用紙を全国親の会ホームページよりダウンロードし、ご記入の上、作品の写真データ(デジカメ)あるいは写真プリントを添えてお送り下さい。

留意点:人物も一緒に写っているスナップ写真は避け、作品のみのズームアップ写真をお送り下さい。データの場合、ファイルが極端に大きくなる事があるため、応募用紙に貼り付けず別ファイルでの送付をお願いします。

## 会員の皆様の「生の声」募集

～ 一人一人の生の声をもとに、支援の更なる充実を求めて ～

発達障害に関する国の方針や法律も年々整備されてきました。発達障害者支援法の施行から 8 年、特別支援教育は本格実施から 6 年が経過しました。現在、国では障害者権利条約の批准にむけ、国内法の整備が進んでいます。教育分野ではインクルーシブ教育システムにむけての検討が、また福祉の分野では、改正障害者基本法の障害定義に「精神障害(発達障害を含む)」と発達障害が明記されました。2013 年 4 月 1 日からは、「障害者総合支援法」が施行されますが、障害支援区分の認定を含めた支給決定の在り方などは法施行後 3 年を目途として検討が行われます。「障害者雇用促進法」においては、障害者の法定雇用率が現行 1.8%から 2.0%に引き上げられ、雇用義務の対象に精神障害者を加えることの検討など、制度の改革が進められています。

今、私たちの声をしっかりと社会に伝えていくことがたいへん重要です。特に共生社会(インクルージョン)の実現に向けて「合理的配慮」が位置付けられました。一人一人の当事者にとってどんな環境の調整や配慮・支援があればいいのかを具体的にイメージして「生の声」にして下さい。

また、2012 年 12 月 5 日に公表されました「通常の学級に在籍する発達障害の可能性のある特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査結果」についても、小・中学校にお子さんを通わせている会員の皆様から、ご意見や「生の声」をお寄せいただければと思います。調査結果は、文部科学省のホームページに記載されています。(検索:文科省→教育→特別支援教育→資料→データ→調査結果(PDF ファイル))

NPO 法人全国 LD 親の会では、会員の「生の声」を集約し、具体的な支援制度の充実や合理的配慮のあり方について要望していくことを考えています。詳しくは各会の事務局にお問い合わせください。なお、期日は 4 月 20 日までとしております。お忙しいことと思いますがよろしくお願いします。

## 近畿ブロック紹介

近畿・中国・四国の各地域で活動している10会が力を合わせ活動しています。今回はその中から5つの会と今年度の合同研修会を紹介します。

### 滋賀LD親の会「トムソーヤ」

トムソーヤは4月で創立23年を迎えます。創立当時小学生の保護者が大半でしたが、今や会員の3分の2が高校生以上の保護者になっています。

組織として小学部、中学部、高校部、青年部と3つの部会に分かれていますが、会員の減少により今年度から小中学部は合同で活動することになりました。活動として滋賀LD研究会の先生に方にご協力いただき、子どもたちがソーシャルスキルや教材の学習をしたり、社会性・自立の伸張を図るために年2回合宿をしたりしています。青年部は滋賀大学の特別支援専攻の院生さんやLD研の先生方のフォローをうけ、余暇活動の充実のための取り組みをしています。今年度は、中高生も学園祭に参加し、たこ焼きを作りました。

会員の関心は就職に関することが第一になっています。そこで本年度は高校部や青年部の企画で、滋賀県障害者職業センターと滋賀県障害者雇用センターへ見学にいきました。今まで学校で受けている支援を職場への支援につなげるために、親はいろいろな支援先を知ることが大切であることや、当事者本人の障害受容の難しさを感じました。発達障害者の支援や法的整備も整ってきていますが、先輩のおかあさん方の体験を聞いたり、会員相互の情報交換をしたりすることはたいへん貴重で、部会を超えてトムソーヤの会員同士がつながっています。

### 奈良LD親の会「パンジー」

「パンジー」は、LD及びその周辺の特性を持つ発達障害児・者の親の会です。1990年にどんぐりの会として発足し、他の親の会とつながりを持ちながらLD理解のための学習・親の交流・関係機関への働きかけ・子ども達のレクリエーション等の活動を行っています。現在会員は48名・賛助会員は3名です。

児童部は、毎月第2土曜日に、体育館で運動中心のソーシャルスキルトレーニングを親子で行っています。青年部や成人部は、本人中心のグループ活動を行っています。学校の友達とはうまくつながりあえない子どもたちも、会の活動を通して仲良くなり相談しあえる友達にまでなってくれています。本人たちのホッとする居場所になってくれて

いるのが一番嬉しいことです。

親の方は、役員会や各部の部会を通じて、親同士の悩みや日頃困っていること等の思いを打ち明け共有しています。また先輩のお母さんからは、貴重なアドバイスをもらっています。子どもを元気にするには、まず親から。親が元気にならないと子どもには向きあえません。みんなで元気になっていくよう、つながりを大事にしています。

慣れない行政訪問や企業訪問、各種支援機関への啓発等も、子どもたちが充実した社会生活を送れるような支援を受けるために、今後も続けていくつもりです。

### 大阪LD・癡度発達障害親の会「翼」

「翼」は1992年に発足。今年21歳となります。現在は30数名のこじんまりとした会ですが、ほぼ全員が直接に間接に教室活動を主に担当する事で、「会を運営しているんだ」という意識と行動力が育っています。関わっていくことで子どもたちから元気をもらうと共に、いつも問題意識を持って行動していく事ができます。親同士のコミュニケーションは抜群。子どもの成長だけでなく、それを支える親の成長も同時進行させているのがセールスポイントです。

会の中心的活動である「教室活動」を紹介します。

#### 【対象:青年・高校生】

<ウイング>:京セラドーム野球観戦と飲み会、城めぐり等、自分たちがやりたい事の提案・計画やゲームを実施しています。

<ウイングスポーツクラブ>:体を動かす機会が減りがちな青年が、スポーツを楽しみつつ仲間作りをしています。

<演劇教室>:1人ひとりの個性を生かした題材に挑戦中。「翼」総会での発表が毎年楽しみです。

<パソコン教室>:ゆったりと、楽しく。

#### 【対象:小・中学生】

<翼教室>:翼の歴史と共に歩んで下さっている先生の、アイデアいっぱい、工夫いっぱい、子どもの特性を知り尽くした授業は、皆を虜にします。同行の親同志や親と先生との貴重な交流の場ともなっています。

<スポーツ教室>:月に1度の張り切りタイム。

<小ウイング>:不定期実施の気さくな交流会。

#### 【親の教室】

<運営委員会>:親が月に1回集まり、「翼」の行事を中心に気さくに本音で語り合います。個人的な相談もお気軽に!解決の糸口が見つかるかもしれません。

### 広島癡度発達障害親の会「明日葉」

1992年に広島LD親の会「明日葉」として発足し、2007年に名称を広島癡度発達障害親の会「明日葉」と改め、広島県西部を中心に活動しています。現在会員数は約43名

です。主な活動は、①小学生・中高生・青年の年齢ごとに分かれていく“本人参加のグループ活動”、②会員（親）への相互支援活動、③社会に対して発達障害への理解と支援を求める啓発活動の3つです。

グループ活動の歴史は長く、明日葉の活動のメインともいえる活動です。「学校にはなかなか行けないけれども、グループ活動で仲間と会うのを楽しみにしている」という子どもがいることからわかるように、気の合う仲間との集まりが子どもたちの元気の源になっているようです。グループ活動や、毎月行われる運営委員会の際には、保護者同士で情報交換をしています。先輩のお母さんからのアドバイスは貴重な道しるべです。また、他では共有できない思いを話せる場を持つことは、日々の子育てに携わる勇気を与えてくれます。

啓発活動として研修会や行政訪問などを行ってきましたが、近年は発達障害の認知度も高まるにつれ、自治体の支援検討会議等に参加する機会も増えました。数年前からは、市主催の家族サポートの会へも実行委員として参加しています。このような会の外への働きかけは、ハードルの高い活動ですが、子どもたちの未来のために今後も地道に続けていこうと考えています。

### 岡山県LD等発達障害親の会 「はあとりんく」

岡山県LD等発達障害親の会「はあとりんく」は、2012年6月に設立と同時に全国LD親の会に加盟させていただきました。できたホヤホヤの会です。

昨年7月に竹田契一先生をお迎えしての設立記念講演会には、200名を越える方のご参加をいただきました。読み書きに困難がある子ども達の世界を体验させていただき、参加された皆さんからも大変な反響をいた

だきました。

月1回の定例会では、ビジョントレーニングを取り入れた遊びの会、思考ツール親子体験会などの子ども向けの学習会の他、保護者同士が日頃の悩みを共有したり、相談できる機会になればと、おしゃべり会や進学相談会などにも取り組んできました。12月に行われたクリスマス会では、自己紹介ゲームやbingoゲームで親睦をはかった後、広い体育館で、紙飛行機飛ばしや、新聞プール、風船やボーリング遊びなど、思いっきり体を動かして遊びました。会を通して友だちができた子どももいて、嬉しく思っています。会員の皆さんにとって、ほっとできる居場所になれるように活動していきたいと思います。

### ☆☆近畿ブロック研修会☆☆

#### 「親支援のためのストレスマネジメント講座」

～実力を發揮するためのストレスマネジメント～

日時：2012年7月21日（土）午後1:30～4:30

場所：ドーンセンター5F 特別会議室

講師：高山 恵子氏（NPO法人 えじそんくらぶ代表）

参加者数：会員66名、一般8名

発達障害のある本人や家族にとってストレスとうまく付き合っていくことはとても重要で、本人たちを支えるためにも保護者の笑顔を増やすことが大切です。今回の近畿ブロック研修会は、NPO法人えじそんくらぶ代表高山恵子さんをお招きし、ストレスと上手に付き合う方法を学びました。子ども時代のご自身の体験談や現在の状態等も交え、テンポや歯切れの良いトークは終始笑いが絶えず、とても楽しく充実した講演会でした。発達障害のある子ども達が如何に多くのストレスを抱えているかや、問題行動となる過程などを、ワークを交えながら体験し、その事例や対処法も分かり易く教えていただきました。研修会参加者のアンケートからも、今後の子育てに活かせるエッセンスをたくさんもらうことができた、肩の力がスッと抜ける思いがしたという感想が多くあり、すぐにでも実践できるヒントが数多く盛り込まれていました。

### 和歌山教育講演会 発達障害と特別支援教育～発達障害のある子どもへの支援の充実に向けて～

日 時：2013年4月21日（日）13:20～16:45（受付 13:00～）

場 所：さんさんセンター（北コミュニティーセンター）多目的ホール3・4

講 師：竹田 契一 氏（大阪教育大学名誉教授、大阪医科大学LDセンター顧問）

「読み書きが苦手な児童生徒への教育的支援」

小野 次朗 氏（和歌山大学教授）

「発達障害の子どもたちを地域で支援するためのアイデア」

定 員：200名 資料代：1,000円

主 催：特定非営利活動法人全国LD親の会 共 催：和歌山県LD等発達障害親の会「ほつぶ」

後 援：和歌山県教育委員会、有田市教育委員会、岩出市教育委員会、海南市教育委員会、紀の川市教育委員会、

和歌山市教育委員会

\*詳しくは、全国LD親の会HPをご覧ください。

## ●NPO法人全国LD親の会 活動報告

- 1月18日 「かけはし74号」発行
- 1月20日 サポートツール・データベース事業の運営会議(内藤・井上)
- 1月24日 JDDネット三役会(山岡) 3/6
- 1月25日 文部科学省 特別支援教育課 訪問(内藤・丹藤・山岡)
- 1月25日 厚生労働省 障害福祉課地域移行・障害児支援室、障害者雇用対策課 訪問(内藤・丹藤)
- 1月26日～27日 ボランティア支援員養成講座(市川市)(内藤・山岡・丹藤・木村・岩田)
- 2月08日～10日 アメニティーフォーラム参加(山岡・内藤)
- 2月10日 サポートツール全国キャラバン2012「教材教具研修会」in 東京(丹藤・木村・岩田)
- 2月11日 サポートツール全国キャラバン2012「教材教具研修会」in 長崎(奥野)
- 2月10日 JDDネット主催 ストレスマネージメント講座(大阪) (内藤・井上)
- 2月17日 NPO法人全国LD親の会第13回評議員会、NPO法人全国LD親の会第15回理事会
- 2月24日 JDDネット主催 ストレスマネージメント講座(大阪) (内藤)
- 2月25日 JDDネット第9回年次大会 実行委員会(丹藤)
- 2月27日 「会員の声」募集
- 3月03日 特別支援教育支援員養成事業第2回実行委員会(内藤・山岡)
- 3月05日 日本財団2013年度助成決定  
 ・発達障害児のためのサポートツールの個別の使い方とユニバーサルデザイン化  
 ・特別支援教育支援員養成事業
- 3月14日 文部科学省「特別支援教育ネットワーク推進委員会」(内藤)
- 3月15日 平成26年度予算要望書 (JDDネットに提出)
- 3月30日 サポートツール・データベース事業 運営会議と公募審査会(内藤・井上)
- 3月31日 「特別支援教育支援員養成講座テキスト(上巻)」発行

## ●第15回理事会報告

日 時: 2013年2月17日 17:30～18:30 場 所: アトレ品川  
 出席者: 多久島陸美、丹藤登紀子、東條裕志、内藤孝子 欠席者: 井上育世

### [議案]

第一号議案 NPO法人全国LD親の会 第13回評議員会における審議結果の承認  
 第13回評議員会における審議結果を審議し、全員一致でこれを承認した。

### <審議事項>

- ・大分発達障害親の会「じゃんぷ」正会員としての入会
- ・アジア太平洋障害者の十年(2003～2012)最終記念障害者関係功労者表彰の祝賀会の開催
- ・平成25年度 研修会(平成25年6月8日)の内容
- ・連携機関の加盟
- ・平成26年度予算要望書の提出(文部科学省、厚生労働省)

## ●2013年度会員名簿更新のお願い

2013年度の会員名簿の更新について、更新用のデータを各親の会事務局あてにメールでお送りしています。新年度の繁忙期で恐縮ですが、2013年5月15日までに、NPO法人全国LD親の会事務局に提出ください。